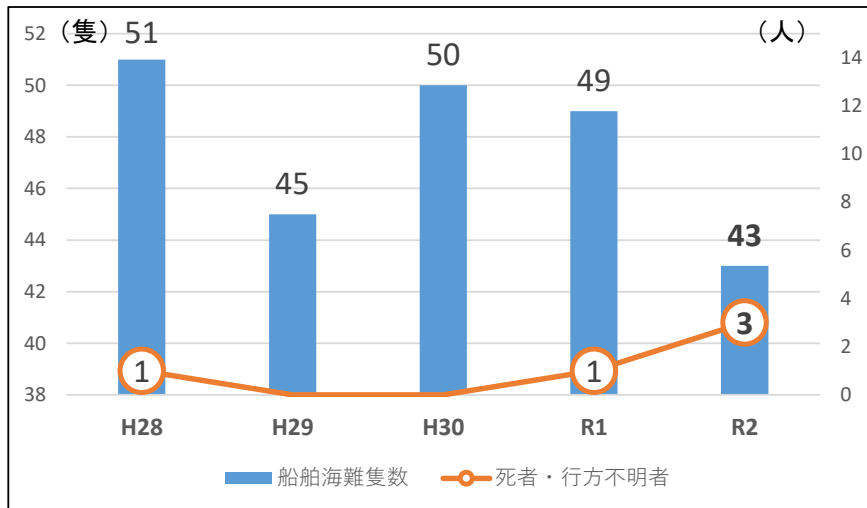


# 1 船舶海難の発生状況（速報値）

## (1) 発生推移

- ✓ 令和2年の船舶海難発生隻数は43隻で、令和元年に比べて6隻減少（過去5年で最小）
- ✓ 船舶海難に伴う死者・行方不明者は3名で、令和元年に比べ2人増加

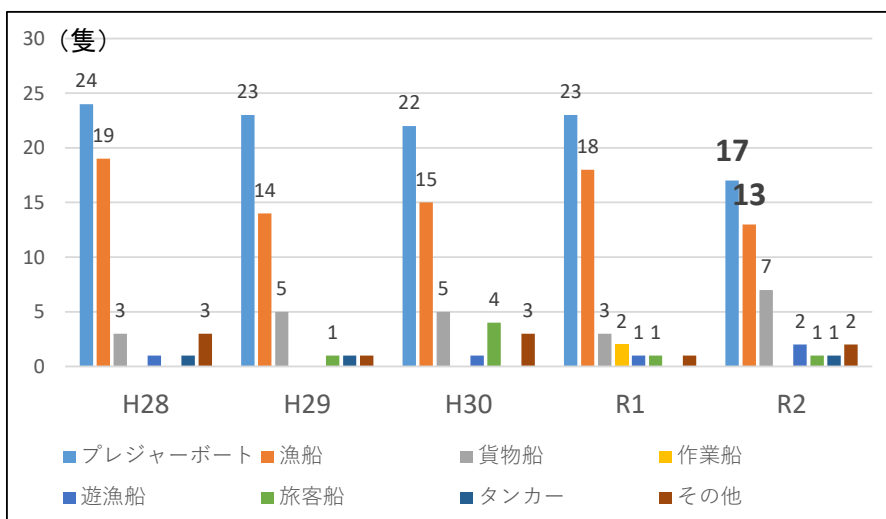
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	平均（過去5年）
船舶海難隻数	52	51	45	50	49	43	49
死者・行方不明者	1	1	0	0	1	3	0.6



## (2) 船舶種類別海難隻数

- ✓ 令和2年の船舶種類別は、プレジャーボートが17隻（6隻減）が最も多く、次いで漁船13隻（5隻減）、貨物船7隻（4隻増）となっている。 ※()内は前年比
- ✓ プレジャーボートと漁船が全体の7割を占めている

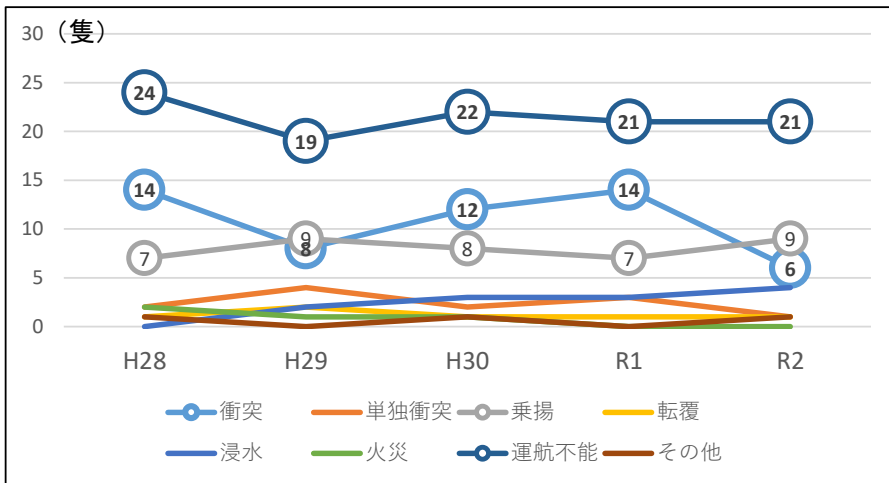
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	平均（過去5年）
プレジャーボート	24	24	23	22	23	17	23
漁船	23	19	14	15	18	13	18
貨物船	0	3	5	5	3	7	3
作業船	1	0	0	0	2	0	1
遊漁船	1	1	0	1	1	2	1
旅客船	1	0	1	4	1	1	1
タンカー	1	1	1	0	0	1	1
その他	1	3	1	3	1	2	2
合計	52	51	45	50	49	43	49



(3)海難種類別隻数

✓令和2年の海難種類別は、乗揚げ9隻(2隻増)・運航不能の機関故障が9隻(1隻増)と最も多く、次いで衝突が7隻(10隻減)の順となっている。 ※()内は前年比

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	平均(過去5年)
衝突	11	14	8	12	14	6	12
単独衝突	6	2	4	2	3	1	3
乗揚	11	7	9	8	7	9	8
転覆	3	1	2	1	1	1	2
浸水	1	0	2	3	3	4	2
火災	0	2	1	1	0	0	1
運航不能	20	24	19	22	21	21	21
その他	0	1	0	1	0	1	0
合計	52	51	45	50	49	43	49



運航不能 詳細

✓依然として機関故障が多く、その大半がプレジャーボート(6隻)。機関整備不良など。

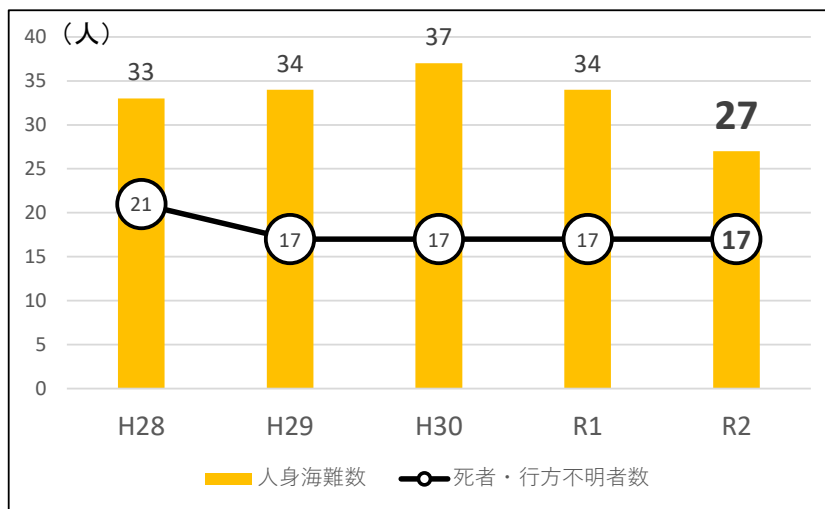
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	平均(過去5年)
機関故障	9	12	11	12	8	9	10
バッテリー過放電	4	3	2	1	3	4	3
ろ・かい喪失	0	1	0	1	0	0	0
機関取扱不注意	1	1	0	0	0	0	0
推進器障害	2	3	3	2	3	0	3
船位喪失	0	1	0	1	0	0	0
操船技能不足	0	1	0	0	1	0	0
走錨	1	0	0	1	0	0	0
舵障害	0	0	1	0	0	0	0
燃料欠乏	0	1	0	0	0	1	0
無人漂流(海中転落)	0	0	2	2	2	2	1
無人漂流(係留不備)	0	2	0	2	3	2	1
有人漂流	2	0	0	0	1	2	1
荒天難航	0	0	0	0	0	1	0
その他	1	0	0	1	0	0	0
合計	20	25	19	23	21	21	22

## 2 人身海難発生状況(速報値)

### (1) 発生推移

- ✓ 令和2年の人身海難発生数は27人で、令和元年と比べて8人減少。
- ✓ 死者・行方不明者は17人で、令和元年と比べて1人減少。

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	平均(過去5年)
人身海難数	28	33	34	37	34	27	33
死者・行方不明者数	18	21	17	17	17	17	18



### (2) 事故区分別

- ✓ マリンレジャーに伴う海浜事故者が5人で、このうち死者・行方不明者が4名である。
- ✓ 釣り中による海中転落(3名 死者・行方不明者2名)、遊泳中の溺水(2名 死者・行方不明者2名)。

※ 船舶海難によらない乗船者の人身事故: 乗船者の病気、負傷等

※ マリンレジャーに伴う海浜事故: 釣り中や海水浴中などでの事故

※ マリンレジャー以外の海浜事故: 岸壁等からの海中転落、自殺等

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	平均(過去5年)
船舶海難によらない乗船者の人身事故	10	9	10	10	10	7	10
マリンレジャーに伴う海浜事故	6	8	15	5	10	5	9
マリンレジャー以外の海浜事故	12	16	9	22	14	15	15
合計	28	33	34	37	34	27	33